

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	7	秘書企画費	158

部局名	経営部
課名	企画広報課

I : 事業概要

施策事業名	秘書事務
事業目的	市長、副市長がその職務を円滑に遂行できるようスケジュール管理や資料作成を行うとともに、栄典や表彰に関する事務を行い、市政運営の円滑化を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○秘書事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各課や諸団体から依頼のある行事等について、市長、副市長が滞りなく行事等に出席しその職務を遂行できるよう日程を調整、管理するとともに、適切な資料を提供した。 (参加依頼行事や慶弔に係るスケジュール調整と随行、市長会議等への提出議案(要望事項)の全庁調整、市長への各種原稿作成依頼の管理、その他市長・副市長の日程調整全般など)</li> <li>栄典や表彰に関する推薦、自治功労者について把握し功績の顕著なものを表彰することによって市の自治の振興を促進した。(叙勲推薦・受取事務、叙勲褒章受章者祝賀会の開催、自治功労表彰、商工会議所と共催で実する新年交礼会の開催等)</li> </ul> <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普通旅費、特別旅費 584,299円</li> <li>○全国市長会分担金 428,000円</li> <li>○愛知県市長会負担金 262,000円</li> </ul>
事業の成果・効果	<p>●各課や諸団体から依頼のある行事等について、市長、副市長が滞りなく行事等に出席しその職務を遂行できるよう日程を調整、管理するとともに、適切な資料を提供した。</p> <p>●新年交礼会、叙勲・褒章受章者祝賀会を開催し、自治の振興の機運を高める機会とした。</p>

II : 個別事業内訳

(単位:千円)

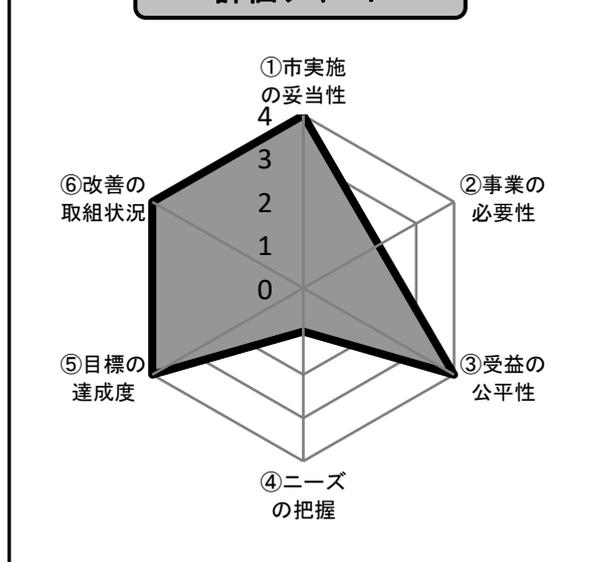
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
秘書事務	2,298	0	2,298	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,298	0	2,298	100%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		2,218	2,298	3,079
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,218	2,298	3,079
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市長・副市長の職務に直結する業務のため市以外に実施主体はない。叙勲受章者祝賀会は、市民の栄誉を称える業務であるため、市以外に実施主体はない。
②事業の必要性	2	新年交礼会や叙勲受章者祝賀会の開催に関しては、市民の日常生活に直結するものではなく、非常時下の優先度は高いとは言い難い。
③受益の公平性	4	市長または副市長が行事や会議に出席することで、不特定だが多数の市民に影響を与えるものである。また、新年交礼会は参加費を徴収している。
④ニーズの把握	1	市長・副市長の開催事への出席に関する事業は、ニーズ調査の性質に合わないが、年々出席依頼が増加していることから、ニーズは高まってきている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の目標や計画に示した事業はすべて達成した。
⑥改善の取組状況	4	市長、副市長とのコミュニケーションにおいて、対面に限らずLoGoチャットを併用することで、内容伝達の確実性と迅速性が向上した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長、副市長の作業や執筆等に集中できる執務時間や、良好な健康状態で公務が遂行できる環境の確保を意識してスケジュール管理方法の検討及び実施に着手した。</li> <li>・確実に迅速な情報伝達のため、LoGoチャットを併用した。</li> </ul>
令和7年度に見直しを実施している事項	公務が集中する時期などもあるため、適宜スケジュール調整を行い、引き続き市長・副市長の健康に配慮したスケジュール管理に努めていく。
今後見直しを検討する事項	秘書事務全般について、必要性、効率性、コスト面を意識した見直しの検討を行なう。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市長・副市長の業務が過密スケジュールとならないようなスケジュール管理を行い、執務効率の下降を防ぐ必要がある。	さまざまな業務(行事出席依頼、面談、担当課打合せ、決裁、自身の執務時間など)の性質と内容に応じたスケジュールの取り方を整理しながら、定期的な休息日を設けていく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	7	秘書企画費	158

部局名	経営部
課名	企画広報課

I : 事業概要

施策事業名	企画政策						
事業目的	第6次総合計画及び第2期いぬ！いぬやま総合戦略の進捗管理を行い、目指すまちづくりの方向性や、まちの将来像の実現の推進を図る。その他、総合教育会議、産官学連携の推進、河川空間の活性化や平和施策の推進、移住定住の促進などによって持続可能なまちづくりを推進する。						
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>総合計画に掲げるまちの将来像の実現の推進を図るため各種事業を実施した。</p> <p>○企画政策 市内で発生した児童死亡事案を協議事項とする総合教育会議を2回開催した。</p> <p>○総合計画 第6次総合計画及び第2期いぬ！いぬやま総合戦略の進捗管理のほか、令和6年度に第2期総合戦略が期間満了となるため、その素案検討のため総合計画審議会を4回開催し、令和7年3月に「いぬ！いぬやま総合戦略2025-2030」を策定した。</p> <p>○移住定住 ・PR動画や「住むまち いぬやま」専用ウェブサイト、SNS広告などを活用した「住むまち」の魅力発信やPRを実施した。また、PR冊子「これからいぬやま」を全面改訂した。 ・県内の自治体PRイベントのほか、国内最大級の移住相談イベント「ふるさと回帰フェア」に犬山市として単独で出展した。</p> <p>○平和施策推進 市役所をはじめ民間施設市内4箇所で開催した平和祈念パネル展及び市内小学校（羽黒小学校・城東小学校）での戦争体験者による講話会を開催した。</p> <p>●主な決算の内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>○報償費（総合計画審議会委員報酬）</td> <td>360,000円</td> </tr> <tr> <td>○委託料（シティプロモーション支援業務）</td> <td>2,999,700円</td> </tr> <tr> <td>○印刷製本費（PR冊子「これからいぬやま」）</td> <td>242,000円</td> </tr> </table>	○報償費（総合計画審議会委員報酬）	360,000円	○委託料（シティプロモーション支援業務）	2,999,700円	○印刷製本費（PR冊子「これからいぬやま」）	242,000円
○報償費（総合計画審議会委員報酬）	360,000円						
○委託料（シティプロモーション支援業務）	2,999,700円						
○印刷製本費（PR冊子「これからいぬやま」）	242,000円						
事業の成果・効果	<p>○企画政策事務 企業版ふるさと納税制度を活用した寄附を集め、財源の確保及びシティプロモーションができた。</p> <p>○総合計画 令和7年度を始期とする新たな総合戦略を策定した。</p> <p>○移住定住 遠方からの転入者を対象とした新たな補助制度を創設した（補助実績なし）。 住むまちとしての情報を集約した専用ウェブサイトの魅力を高めるため、掲載内容の見直しや新規コンテンツの追加を行ったほか、YouTubeとSNSでの広告掲載を実施し、PR動画再生数が大幅増加した。</p>						

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

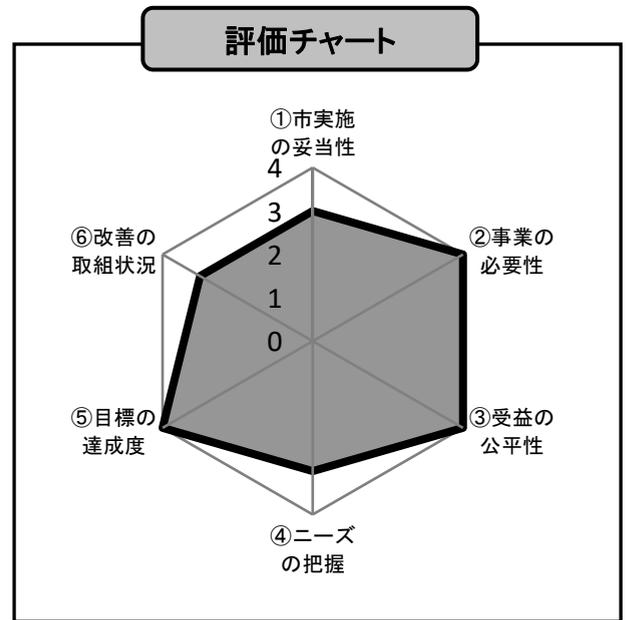
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
企画政策事務	278	278	0	0%	3	3	3
総合計画	647	0	647	100%	4	4	4
移住定住	3,569	1,735	1,834	51%	4	3	3
平和施策推進	138	0	138	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,632	2,013	2,619	57%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		3,106	4,632	17,770
財源内訳	国県支出金	1,052	1,749	6,228
	地方債	0	0	0
	その他	1,545	264	1,011
	一般財源	509	2,619	10,531
一般財源の割合		16%	57%	59%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	計画や戦略等は市が策定、進捗を管理するものであり、他が主体となることは考えられない。計画以外の施策の大部分は、他自治体とは異なる犬山市の魅力向上、創出、発信に資するものであり、民間による事業実施の可能性は否定できないが、採算性は期待できない。
②事業の必要性	4	中長期的な視点での施策・事業の選択や調整は計画的な財政運営に不可欠である。また人口減少の中、街の活力維持に人口の維持は必要である。恒久的な平和維持のため市民への周知は不可欠である。
③受益の公平性	4	市全体の方針を示す計画や戦略のほか、定住施策、平和推進施策のいずれもすべての市民を広く対象としたものである。
④ニーズの把握	3	原則として、産学官民の各者に委員委嘱をしている総合計画審議会の委員の意見をききながら各事業を実施している。さらに、総合戦略策定時には、市民意識調査やパブリックコメントを、移住施策では、市外でのイベント等や窓口での相談時にアンケートを実施し、ニーズの把握を実施した。
⑤目標の達成度	4	移住に資する市外在住者を対象として企画した交流イベントの天候不良による中止はあるが、概ね当初の目標、計画どおり達成することができた。
⑥改善の取組状況	3	例年どおりに実施する事業もあるが、大部分については実施内容や手法の見直しを行いながら、事業を実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	移住定住相談は、窓口や電話での相談対応だったため、新たにオンラインでの相談にも対応できるよう環境を整え、「住むまち いぬやま」ウェブサイトの情報の修正、新コンテンツ(インタビュー、Q&A)を作成・公開した。また、様々な手法で情報発信ができるよう、令和4年度以降、作成をしていなかったパンフレットについても新たに作成した。
令和7年度に見直しを実施している事項	企業版ふるさと納税について、市HPへの情報掲載だけでなく、関連サイトへの情報掲載など寄附募集周知の拡充等の検討を行う。 市外転出者との関係性を維持することを目的とした「ずっといぬやま応援団」の団員数を増やすために周知方法や登録促進のための手法を検討する。
今後見直しを検討する事項	令和8年度が総合計画の中間見直しとなるため、前半期の事業の検証と、見直しの検討をしていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
関係人口の創出を目的として令和5年度に創設した「ずっといぬやま応援団」の登録者数が伸び悩みが課題である。	現在の周知方法(市民課窓口でのチラシ配付・市ホームページでの情報掲載・自治体PRイベントでの案内)以外の周知方法や、周知を登録者数増加につなげる方法の検討を行い、順次着手する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	7	秘書企画費	158

部局名	経営部
課名	企画広報課

I：事業概要

施策事業名	市制70周年記念事業
事業目的	令和6年4月1日に市制施行70年を迎えるにあたり、犬山市の魅力を再発見するとともに、楽しさを感じる記念事業を開催することで、市民のまちへの愛着と新たなまちづくりに向けた活力の推進を深める機会とする。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>「やさしさ」・「げんき」・「さいはっけん」をテーマに、「市民が真ん中 この日はまるっと1日 犬山三昧」をキャッチコピーとして、5月18日(土)・19日(日)の2日間を中心に、市内各所で様々な記念事業を実施した。</p> <p>○記念式典</p> <p>令和6年5月18日(土)に犬山市民文化会館で開催。一般表彰及び自治功労表彰を行ったほか、羽黒小学校児童による合唱、市内4中学校吹奏楽部による合同演奏、犬山中学校アートコミュニケーションクラブによるからくり人形の記念演技を披露した。</p> <p>○その他記念事業</p> <p>文化会館、南部公民館、エナジーサポートアリーナ(市体育館)等の公共施設をはじめとして、市内各所で市内の事業者や団体などと協した市主催・共催・後援の記念事業を開催したほか、市民が各会場などを周遊し、市内各所での記念事業に参加・体験できるクイズスタンプラリーを実施した。そのほか、オリジナルの記念切手や記念物品(ティッシュBOX・付せん・カプセルトイ)を製作した。</p> <p>●主な決算の内訳</p> <p>○記念式典関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消耗品費 418,663円</li> <li>・式典会場借上料 324,110円</li> <li>・印刷製本費 145,200円</li> </ul> <p>○記念事業関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市制70周年記念事業実施負担金 1,143,592円</li> <li>・会場借上料 385,480円</li> <li>・消耗品費 2,124,100円</li> </ul>
事業の成果・効果	<p>市制70周年を記念し、式典や各周年記念事業を滞りなく実施できた。</p> <p>4月から順次記念事業を開催し、特に令和6年5月18日・19日には、記念式典や、市内を巡回するスタンプラリー、いぬやまガチャの販売の他、環境フェアや、歴史文化施設一斉無料開放など各課事業、「笑」と一緒に鳴子踊りを踊ろう」など市後援事業、新たに組織した実行委員会による記念花火の打ち上げなどを集中的に開催し、市の活気や市民の市の魅力の再発見を促し、新たなまちづくりに向けた足がかりとなる事業を実施できた。</p>

II：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

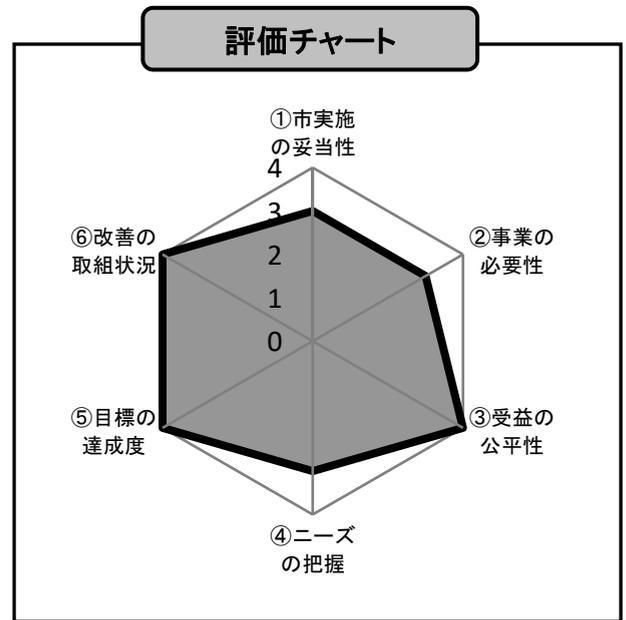
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市制70周年記念	6,107	2,156	3,951	65%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	6,107	2,156	3,951	65%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		-	6,107	-
財源内訳	国県支出金	-	0	-
	地方債	-	0	-
	その他	-	2,156	-
	一般財源	-	3,951	-
一般財源の割合		-	65%	-

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	周年記念事業の基礎は、市が主体となり実施するものであり、他が主体となることは考えにくい。事業目的や内容に沿って民間事業者と協働することは可能だが、市が主体となって実施すべき事業である。
②事業の必要性	3	市民の日常生活への支援に直結するものではないが、周年事業を通じ、様々な地域・年代へアプローチを行うことで、市への愛着の醸成を図ることができるため、今後の犬山市の発展へ資する事業である。
③受益の公平性	4	一部の地域のみならず、市内全域を対象とすることで、多数の市民が参加できる事業となった。
④ニーズの把握	3	周年事業という性質、市民のニーズを直接把握することは難しいが、企画の段階から、全庁や市内外の民間事業者、大学などと協働していくことで、市民の希望を間接的に広く把握した。
⑤目標の達成度	4	年間スケジュールに沿って事業を実施し、当初の目標・計画どおりに完了した。また、70周年の冠事業として全庁的に多数の事業に取り組み、市全体で周年事業を実施できた。
⑥改善の取組状況	4	過去の事業実績を踏まえ、大規模集客を見込む催事にはオンラインでの申込や市民優先、事業全般で市内事業者との連携を導入するなど、利便性向上や市実施の意義を鑑み、実施方法や手法の見直し等を行いながら事業を実施した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	過去の周年事業を内容や実績を踏まえ、今の犬山らしいテーマ選定やイベント内容等の検討を行い、実施方法等を協議・見直しながら実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	周年記念事業としては終了したが、作成したグッズ等は引き続きプロモーション活動時に使用することになるため、出展イベントの選定や効果的な配布方法などについて検討していく。
今後見直しを検討する事項	今回の実績をもとに、実施意義や実施に係る費用とその効果を全体に整理・検証した上で、次回以降の周年事業の実施時期や内容を決定していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
定住を目的とした事業は今後も続くため、周年事業を機に今後も、市民のまちへの愛着の醸成や魅力の再発見にどう繋げていくかが課題となる。	作成した冊子やグッズは今後もシティプロモーションのために活用し、周年事業を契機に住むまちいぬやまのPRを継続していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	9	文書広報費	166

部局名	経営部
課名	企画広報課

I：事業概要

施策事業名	広報広聴
事業目的	市政情報をわかりやすく発信し、市民と行政の情報共有を行う。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○広報広聴事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公式HPは、掲載情報の充実を行い、市政情報を早く的確に伝えることができた。</li> <li>LINE、Facebook、X（旧Twitter）など、各公式SNSの特性を活用し情報発信を行った。</li> <li>広報専門員による動画の作成、外部デザイナーを活用したチラシの作成を行うことで、より伝わりやすい情報発信を行った。</li> <li>市民相談員の勤務日数を増やし、広く市民の相談ニーズに対応した。</li> <li>タウンミーティングを実施し、幅広く市民から寄せられた意見・提案を政策形成に活かした。また、同時に市長と市民が直接対話する「車座トーク」を実施し、広く市民の意見を聴取することができた。</li> </ul> <p>○広報紙作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、民間業者による広報の全戸配布を実施した。</li> <li>令和6年度は、令和7年10月号からのリニューアルに向けて、新しいデザイン案を決めるためのコンペを実施した。</li> </ul> <p>○広報板管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報板は、市政情報を伝えるため、各町内会に設置しその維持管理を行った。</li> </ul> <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○印刷製本費（広報印刷費） 14,627,250円</li> <li>○行政文書配達委託料（広報配達費） 21,822,560円</li> <li>○ホームページ管理運用システム使用料 2,011,680円</li> </ul>
事業の成果・効果	<p>●広報広聴事務</p> <p>ホームページや公式SNSを活用し、適切に素早く市政に関する情報を発信することができた。</p> <p>広報専門員による動画広報「まるいちTV」の撮影を行い、わかりやすく発信を行えた。外部人材を活用することで、発信力のあるデザインのチラシ等を作成できた。</p> <p>市民相談、各種相談に適切に対応することで、広く相談ニーズに応えることができた。</p> <p>●広報紙作成</p> <p>月1回発行、民間業者による全戸配布を適切に行うと共に、令和7年10月号からの広報リニューアルに向け、デザインコンペを行い、新紙面のデザインを決定することができた。</p> <p>●広報板設置</p> <p>町内会の要望に基づき、現状の把握を行い広報板の改修、撤去を行うことができた。</p>

II：個別事業内訳

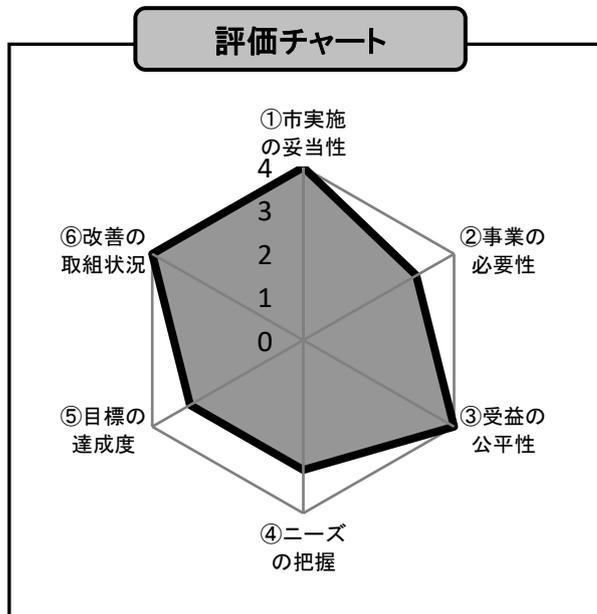
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
広報広聴事務	8,637	470	8,167	95%	3	4	4
広報紙作成	37,583	7,070	30,513	81%	3	3	3
広報板管理	420	0	420	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	46,640	7,540	39,100	84%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		40,000	46,640	51,297
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	7,313	7,540	8,438
	一般財源	32,687	39,100	42,859
一般財源の割合		82%	84%	84%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政の説明責任(アカウンタビリティ)を果たすうえで不可欠なものであり、主体的かつ積極的な情報発信が必要である。
②事業の必要性	3	税、医療、福祉、子育て、防災など市民生活に不可欠な市政情報を市民へ提供する必要がある。
③受益の公平性	4	全市民が対象となる事業である。
④ニーズの把握	3	令和6年5・6月に実施した広報犬山に関するアンケート及び令和6年9・10月に実施した次期犬山市総合戦略策定に向けた市民アンケート調査において、広報紙・広報板に対する市民の認識や活用状況などを把握できた。
⑤目標の達成度	3	より多くの市民へ市政情報を伝達するために動画広報を実施。また、広報紙や公式HPに加えて各種SNSを活用し、旬なタイミングでの市政情報の発信に努めた。
⑥改善の取組状況	4	SNSによる情報発信として、LINEにおけるリッチメニューの見直しなど改善に取り組んだ。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	「より分かりやすく」、「より親しみやすい」広報紙を作成するため、リニューアルに着手し、新たな広報紙のデザインを決定することができた。
令和7年度に見直しを実施している事項	広報の月1回発行、全戸配達、全ページカラー化を踏まえ、「より分かりやすく」、「より親しみやすい」紙面を目指す上で、広報に掲載する内容の精査を行った上で、広報紙のリニューアルを10月号から実施する。 LINE登録者へのアンケート調査などをもとに、各種SNSの特徴を活かしたより効果的な情報発信ができるよう配信する際のルール作りを行う。
今後見直しを検討する事項	効果的な情報発信、市のプロモーションにつなげていくため、記者発表の方法や、SNSによる発信頻度や配信内容について検討を行っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
広報紙のリニューアルを行うにあたり、各原稿や各団体の掲載基準、掲載内容などの整理、検討を行い、より市民に分かりやすく、親しみやすい紙面づくりを行う必要があり、リニューアル後の紙面について効果検証を実施する必要がある。	令和7年10月号からのリニューアルを契機とし、広報紙をより作成しやすくすることができるグラフィックデザインツール(イラストレーター)を導入したことから、市職員による広報作成であっても、一定の水準で編集や校正を行うことができるようにし、市民のニーズ把握なども行いつつ、より市民に分かりやすく、親しみやすい紙面となるよう広報作りを進める。